

一九六〇年度総会は蒲郡温泉での第八回大会の第一日研究の発表の終了後、有賀教授を座長としてひらかれたが、来年度の共同課題は二日目の共同討議のあとにひきつがれた。

一、次期事務局の件 東京学芸大学の青井、松原両会員に担当してもらうよう提案があり、両氏の承諾を得て、期待の拍手とともに決定をみた。

一、来年度の大会開催地の件、従来通り隔年東京開催ということ、とにかく東京で開きなるべく宿泊大会にもつてゆけるように努力する。

一、次期大会の課題については、「村落における共同化」の問題等が提案されたが、この決定は在京委員会でもう一度審議されてからきめるよう意見が出された。

一、年報編集の事務は、一応、事務局とは切り離して、中央大学の島崎、田野崎両会員のもとで進められることになった。

一、その他 会計報告とともに、会費納入促進の件、会員整理の件、年報配布制による会費値上げの件などが論議されたが結論はみなかった。

(前事務局 藤木 記)